

校長室だより

共学共高

第
61
号

令和5年11月17日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

沖縄修学旅行～その5

修学旅行最終日、5日目の朝を石垣島で迎えた。

この日も3つのコースに分かれて活動する。「石垣島伝統文化体験学習&川平湾観光」「石垣島文化学習&川平湾観光」「石垣島自然学習&川平湾観光」の3つである。私は3つ目の自然学習&川平湾観光の引率を担当した。

ホテルの方々に見送りをしていただき、バスにて「バンナ公園展望台」へと向かう。途中で、八重山高等学校のマラソン大会で集まった生徒さんたちの姿を見ることができた。「制限時間内にゴールしないと補講があります」とバスガイドさんが言うと、生徒たちから「えーっ」という驚きの声が上がった。なかなか厳しい対応である。

展望台では、石垣島の様子が一望できる。海、空港、山など様々なものが目に入ってくる。昨日に訪れた竹富島も見える。自由時間では、生徒たちはおしゃべりをしたり、階段で映画「君の名は」のワンシーンを再現したり、南国の花を觀賞したりと様々な過ごし方がある。

再びバスに乗車し、石垣鍾乳洞へと移動する。ここは私自身、昨年も訪れたところなので様子はわかっていた。思いがけず洞内は気温が高く、涼しい思いをすることはできなかったが、ライトアップされた鍾乳洞や、トトロの姿をした鍾乳石などがあり、生徒たちも楽しんでいました。





再度バスに乗車して、川平湾へと向かう。ここでは3つのコースがすべて合流する。グラスボートに乗船して、船底のガラス越しに見えるサンゴや魚、ウミガメなどを鑑賞した。ウミガメを見つけたときには、生徒たちから歓声上がる。3度ほど、そういう機会があったが、私は最初のウミガメしか見つけられなかった。下船後の自由時間では、生徒たちと一緒に沖縄のアイスクリームを美味しくいただいた。その後、バスに集合して昼食会場へと向かう。最後の沖縄料理をいただいて、新石垣空港へと向かい、沖縄とお別れを告げる。飛行機の準備が遅れ、なおかつ羽田空港に着いてからも、ターミナルまでの送迎バスの到着が遅れ、羽田空港を出たのが、20時を過ぎてしまったが、生徒たちは家路へと向かった。

数か月間にわたり、事前学習をしてきた生徒たちは、歴史・食・沖縄戦・文化・自然・生物・方言など様々に学んできた。しかし、現地に行って直接触れてみないと実感できないこともある。直接体験の意義はそこにある、と言えよう。仲間たちと過ごした5日間を通して、生徒たちは何を感じ、何を学び取ったのか、人それぞれ異なるであろうが、「楽しかった」という思いと共に、沖縄で感じ取ったものも、良き思い出として彼女たちの胸に刻まれることを願う。北陸・関西コース、北海道コースの生徒たちもそれぞれ同様であってほしい。これまで細心の準備を積み重ねてきた教職員及び様々に御協力くださった保護者の皆様に感謝をしつつ、沖縄修学旅行特集を終えたい。(おわり)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)